

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3390100620 | | |
| 法人名 | 株式会社 メゾネット | | |
| 事業所名 | グループホーム 星の家中央 (2F) | | |
| 所在地 | 岡山市北区奥田2丁目5-20 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 2 年 2 月 17 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100620-006ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス | | |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 | | |
| 訪問調査日 | 令和 2 年 3 月 17 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モンテッソーリケアを会社で全体で取り組んでおり、各ユニットでそれぞれ出来事を出来るペースでしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まだ馴染んでない施設において、施設長が葛藤し、奮戦しているところが素晴らしい。そして、ぐんぐんと新しい事にチャレンジして、将来に手が届く様な施設になりそうな予感がする。管理者が、今までの経験を元に、何がどう変化できるかを施設長に伝え、職員も、真摯に受け止め、行動しようとしている姿が素晴らしい。
手洗いの前に置いてある、たくさんのほかほかのおしぼりを、食事に使うのかなと思ったら、排泄用の布巾として利用者と一緒に作っているものだった。普段使っているものを施設で違う形で活用して、利用者に不愉快感を与えない様に努めている所に工夫がうかがわれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 |
|-----|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | モンテッソーリケアの導入に伴い、理念を変更し、事務所に掲示し共有に努めている。 | 事務所にキッチンに掲示している。初任者の方には、質問の都度、気付いた時に説明し、徐々に浸透できる様にしている。業務報告書や会議の中で振り返っている。2か月毎に目標を決めて実践する事で、理念に近づける様にしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のイベントに参加し、交流を深めている。 | 町内会に入り、夏祭りや運動会に参加している。毎月、中学校のボランティア部が、活動の一環として参加し、演奏と一緒に披露したり、一緒に謳ったりしている。また、専門学校生や中学校の職場体験、介護実習を受け入れており、積極的な地域の活動の場となっている。 | もっと、施設の外の世界(地域)に触れ合って、新しい気付きを培って欲しい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ほとんどできていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回行い、日頃の様子をDVDにまとめた物を観て頂いたり、情報交換を行っている。 | 隔月に開催。町内会長や地域包括支援センター、民生委員、馴染みの家族が参加して、日々の生活状況をまとめたDVDを鑑賞したり、地域の情報や意見をやりとりして、サービスの質の向上を図っている。参加メンバーから地域の活動へ参加出来る情報提供を得る事もある。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ほとんどできていない。 | 窓口は、主として施設長。公民館へ出向いて、ボランティアを募って連携している。本社(事務所)が中心となり、市と連携を図っている。市からの情報は事務所を通して伝えられ、研修案内があれば積極的に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員会議で勉強する機会を設けたり、事務所に資料を置いている。年間研修でも取り組んでいる。 | 身体拘束はしていない方向で、ケアを進めている。新人研修の他、月1回の事業所での会議と年1回、本社で各事業所の施設長が集まり、研修を実施し報告・資料配布を行い、法人全体で連携を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議や資料で勉強する機会を作り、発生しないよう注意している。年間研修でも取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|-----------------------------|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 学ぶ機会はあるが、全職員が理解できていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | しっかり納得して頂けるよう話し合いの場を設けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時等、機会を設けている。 | 家族との面会や電話で積極的に声をかけ、意見や要望を聞き取っている。食べ物に関心高い利用者が多いので、テレビに映った食材を「食べたい」の声に共感し、なんとか食せるように、献立に上げる配慮をしている。出た意見や要望は記録に残し、職員間で共有・反映できるよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議や業務報告書を利用し機会を設けている。 | 労務の意見は、個別にどこまで対応できるか図っている。毎月のカンファレンスをもう1回増やしてほしいとの意見を検討して、職員のやる気を伸ばしている。毎月の会議で業務報告書に書かれた意見を出し合い、管理者から本社へ報告して検討した上で、運営に反映している。 | もっと身近に何でも話せる場づくりからスタートして、モンテッソーリケアを、更に飛躍して行って欲しい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 業務報告書や職員と話す機会を設けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員会議で勉強会を行ったり、研修への参加を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 月1回他部署の施設長、管理者が集まり会議を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | コミュニケーションをしっかりと、関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | アセスメントの際、しっかり聞き、関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 職員全体で検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日頃からコミュニケーションを図り、関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時居室でゆっくり話して頂く等、関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族が来訪され、音楽を聴かせる機会を設けているので、良好な関係が出来る様に努めている。関係を維持できるよう努めている。 | 家族、親戚、学友、後見人が面会に来るので、馴染みの人となっている。また、広々として緑や花も多い近隣の公園や、近所のスーパーの買い物等に行くので、そこが馴染の場となっている。家族と一緒に自宅へ帰る利用者や、外食・外泊する利用者があり、各々の生活習慣を尊重している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一緒に作業をする等、関わりができています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|-------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了しても相談があれば対応したい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話等で職員同士で話し合って検討している。 | 利用者の状態に応じて、日々の会話や表情や仕草から等から意向を汲み取ったり、家族から聞き取って把握している。何気ない日常で、テレビの前の長ソファーに並んで座っている時や入浴の時間などで、自然と生まれる会話の時間を活用している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面会時に家族に聞いて把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の申し送りや記録等で把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員会議の際検討し作成している。 | ケアプランは、入居時・3か月・6か月、介護認定の更新時ほか、状態の変化に応じて作成。かかりつけ医の意見を元にプランを立てている。かかりつけ医と意見を交わす事が頻繁にあって、その意見もプランに盛り込んでいる。日々の介護記録に綴った事も集約してプランに盛り込んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 申し送りや個人ノート等を活用し見直ししている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その都度ニーズに対応できるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 散歩や買い物、地域のお祭りに参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的に往診に来て下さり、急変時も連絡し、受診、往診の対応をしている。 | 提携が主治医の場合、2週間に1回の訪問診療がある。また、週1回訪問看護が入っている。週1回の訪問歯科は、希望者のみ診察を受けている。受診介助は、主として事業所が行い、家族も関わっている、どの医師とも何でも話し合える関係が構築されてる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回来て下さる訪看の方に相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 退院が近くなった際等、HPでソーシャルワーカーと話す機会を作っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | Faより希望があった際は、その都度話す機会を作り、かかりつけ医の協力を依頼している。 | 去年1名を看取った。入居時、指針を基に施設長もしくは統括マネージャーが終末期の対応について説明している。年1回本社で行われる看取りに関する研修に各事業所の施設長と管理者が参加。職員の体験も教材にしている。内容は、各事業所に持ち帰り、事業所内で勉強会をして、法人全体で周知出来る仕組みを取っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成し、行動できるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行っている。 | 年2回、火災の訓練を昼夜想定で行う。消防署は年1回参加する。同一建物内にある他事業所と合同で、利用者も参加している。日頃の食材を一週間以上ストックしており、備蓄に使えるようにもしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--------------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 敬語ではないが、なじみのある言い方や表現で失礼のないよう対応している。 | 呼称は、名字でさん付けとしている。また、その方に合った呼び方を家族に確認をして、一番機嫌のよい呼び方で読んでいる。トイレの時は、直接的な言い方をせず、声かけ時の大きさや誘い方に工夫を凝らしながら、尊重した言葉かけ・対応に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員から提案するのではなく、利用者からの発信を待つ。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 極力希望にそえるよう心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 化粧水やヘアトリートメントを利用されている方もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 皮むき、盛りつけ等、できることを一緒にして頂いている。 | 行事には、赤飯とケーキを手作りしている。利用者の意見を取り入れたメニューを考え、食事が楽しみになるような出前の握り寿司や押し寿司もときにある。ちらし寿司は、利用者と共に作ったり、野菜の下ごしらえや盛り付けやお茶を入れてもらったりしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事を残している方には、声をかけたり水分量は記録に残し把握に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 定期的に訪問歯科を利用し、アドバイスをもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人のリズムを把握し、定期的にトイレ誘導を行なっている。 | 個々の排泄パターンを把握し、その方だけに分かる言葉をかけたり、表情やしぐさを把握しながら、気を遣いながら誘導している。手洗い場に、利用者と一緒に用意した、ほかほかのおしぼりを置いておく事で、失敗しても自分で後始末が出来る様にして、自尊心に配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳等、乳製品を出したりしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | おおまかな時間は決まっているが、その中で極力希望にそっている。 | 入浴は、週2回。脱衣所に利用者が作ったちぎり絵を飾って雰囲気を出している。「ちょっとNew Yorkへ行こう！」「寒くないですか？ちょっと、暖かい所へ行きましょうか？」と、浴室まで誘導している。その日の一番風呂の方が、入浴剤を選べ、色々な雰囲気を味わっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人に状態に合わせて行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋をファイルにとじ、すぐ確認できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人に合ったものを見つけ提供できるよう心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近くの公園やスーパーへ買い物くらいしか行えていない。 | 職員と一緒に、目の前の公園やスーパーに行ったり、一緒にゴミ出しをしたりした時に、地域の方や行き交う人とあいさつを交わし合うことで楽しみを増している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在希望される方がいないので所持していない。希望があればその都度検討する。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があればその都度対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとにちがった空間づくりを行っている。 | 型にはまらず、気にならないリビングで、利用者が、本当にもったりまったりして、愉しそうな姿が見える。利用者は、食事中でも、なんでも話してくれるところが素晴らしい。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食事以外は席は自由なので色々な席へ行きお話をされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 昔使っていた家具を持って来て頂く等、居室は自由に過しやすいよう工夫している。 | 思い出の品が肩を並べて勢ぞろいしている。利用者が、どんぐりの背比べみたいに競い合って、自分の居室を楽しそうに作っているから、笑みがほころんで自慢できる居室づくりをしている。安全面もスタッフが気を付けて見守っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの看板を黄色の紙に黒字にする等工夫している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3390100620 | | |
| 法人名 | 株式会社 メゾネット | | |
| 事業所名 | グループホーム 星の家中央 (3F) | | |
| 所在地 | 岡山市北区奥田2丁目5-20 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 2 年 2 月 17 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JlgycosyoCd=3390100620-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス | | |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 | | |
| 訪問調査日 | 令和 2 年 3 月 17 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モンテッソーリケアを会社で全体で取り組んでおり、各ユニットでそれぞれ出来事を出来るペースでしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まだ馴染んでない施設において、施設長が葛藤し、奮戦しているところが素晴らしい。そして、ぐんぐんと新しい事にチャレンジして、将来に手が届く様な施設になりそうな予感がする。管理者が、今までの経験を元に、何がどう変化できるかを施設長に伝え、職員も、真摯に受け止め、行動しようとしている姿が素晴らしい。
手洗いの前に置いてある、たくさんのほかほかのおしぼりを、食事に使うのかなと思ったら、排泄用の布巾として利用者と一緒で作っているものだった。普段使っているものを施設で違う形で活用して、利用者に不愉快感を与えない様に努めている所に工夫がうかがわれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念をラミネートして事務所に掲示している。 | 事務所にキッチンに掲示している。初任者の方には、質問の都度、気付いた時に説明し、徐々に浸透できる様にしている。業務報告書や会議の中で振り返っている。2か月毎に目標を決めて実践する事で、理念に近づける様にしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会の行事、ゴミ当番等も行っている。岡輝中学校の訪問(ボランティア)。 | 町内会に入り、夏祭りや運動会に参加している。毎月、中学校のボランティア部が、活動の一環として参加し、演奏と一緒に披露したり、一緒に謳ったりしている。また、専門学校生や中学校の職場体験、介護実習を受け入れており、積極的な地域の活動の場となっている。 | もっと、施設の外の世界(地域)に触れ合っ て、新しい気付きを培って欲しい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で町内会長の参加をして頂いているので伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で町内会長の参加をして頂いているので伝えている。 | 隔月に開催。町内会長や地域包括支援センター、民生委員、馴染みの家族が参加して、日々の生活状況をまとめたDVDを鑑賞したり、地域の情報や意見をやりとりして、サービスの質の向上を図っている。参加メンバーから地域の活動へ参加出来る情報提供を得る事もある。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議での出席依頼をしている。平日の開催を行っている。 | 窓口は、主として施設長。公民館へ出向いて、ボランティアを募って連携している。本社(事務所)が中心となり、市と連携を図っている。市からの情報は事務所を通して伝えられ、研修案内があれば積極的に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | C会議で廃止委員会、事故対策委員会等で検討した事を職員会議で報告、共有している。 | 身体拘束はしていない方向で、ケアを進めている。新人研修の他、月1回の事業所での会議と年1回、本社で各事業所の施設長が集まり、研修を実施し報告・資料配布を行い、法人全体で連携を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | C会議で廃止委員会、事故対策委員会等で検討した事を職員会議で報告、共有している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|----------------------------|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修案内を提示。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時にきちんと説明できていると思う。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の議事録の提示、不参加のご家族にも郵送。 | 家族との面会や電話で積極的に声をかけ、意見や要望を聞き取っている。食べ物に関心高い利用者が多いので、テレビに映った食材を「食べたい」の声に共感し、なんとか食せるように、献立に上げる配慮をしている。出た意見や要望は記録に残し、職員間で共有・反映できるよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務報告書の活用。 | 労務の意見は、個別にどこまで対応できるか図っている。毎月のカンファレンスをもう1回増やしてほしいとの意見を検討して、職員のやる気を伸ばしている。毎月の会議で業務報告書に書かれた意見を出し合い、管理者から本社へ報告して検討した上で、運営に反映している。 | もっと身近に何でも話せる場づくりからスタートして、モンテッソーリケアを、更に飛躍して行って欲しい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 業務報告書の確認で必要に応じて面談を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 指導項目チェック表の活用。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 毎月本社での会議、年に3回の親睦会。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日常の関わりで対応。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時に職員からのお願い等を管理が窓口でご家族とお話しをする。不在の時は申し送りに対応出来る様にしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その都度困っている事を発信して頂ける様に声をさせて頂いている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人と会話をしっかりして向き合っていると思う。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人と会話をしっかりして向き合っていると思う。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 葉書き等、届いた時は居室に保管している。ご返事を書ける様支援したい。 | 家族、親戚、学友、後見人が面会に来るので、馴染みの人となっている。また、広々として緑や花も多い近隣の公園や、近所のスーパーの買い物等に行くので、そこが馴染の場となっている。家族と一緒に自宅へ帰る利用者や、外食・外泊する利用者があり、各々の生活習慣を尊重している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席等、お互いに関われる様に考慮する。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院等の方にはお見舞いに行ったりする。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人が発信する方が増えた。 | 利用者の状態に応じて、日々の会話や表情や仕草から等から意向を汲み取ったり、家族から聞き取って把握している。何気ない日常で、テレビの前の長ソファーに並んで座っている時や入浴の時間などで、自然と生まれる会話の時間を活用している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日常の会話、アセスメント表で確認、対応している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送りで確認して、その都度対応している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | あまり変化がないので継続が多い。 | ケアプランは、入居時・3か月・6か月、介護認定の更新時ほか、状態の変化に応じて作成。かかりつけ医の意見を元にプランを立てている。かかりつけ医と意見を交わす事が頻繁にあつて、その意見もプランに盛り込んでいる。日々の介護記録に綴った事も集約してプランに盛り込んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常の申し送り時に対応。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日常の申し送り時に対応。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内行事等を回覧版で確認して参加出来る様にしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 2回/週の往診で対応、特変があればその都度連絡指示をもらえる様にしている。 | 提携が主治医の場合、2週間に1回の訪問診療がある。また、週1回訪問看護が入っている。週1回の訪問歯科は、希望者のみ診察を受けている。受診介助は、主として事業所が行い、家族も関わっている、どの医師とも何でも話し合える関係が構築されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 1回/週訪問看護の訪問あり。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時、主治医から連絡をしてもらったり、ソーシャルワーカー等にはお見舞に行ったり、ご家族と話せる機会を相談して連携出来ていると思う。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 出来ている。 | 去年1名を看取った。入居時、指針を基に施設長もしくは統括マネージャーが終末期の対応について説明している。年1回本社で行われる看取りに関する研修に各事業所の施設長と管理者が参加。職員の体験も教材にしている。内容は、各事業所に持ち帰り、事業所内で勉強会をして、法人全体で周知出来る仕組みを取っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアル作成しているが実際経験していない職員は不安な様子。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 運営推進会議等で町内会への協力依頼をしている。マニュアル作成している。 | 年2回、火災の訓練を昼夜想定で行う。消防署は年1回参加する。同一建物内にある他事業所と合同で、利用者も参加している。日頃の食材を一週間以上ストックしており、備蓄に使えるようにもしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 介助の必要な方への声かけには気をつける様、対応している。 | 呼称は、名字でさん付けとしている。また、その方に合った呼び方を家族に確認をして、一番機嫌のよい呼び方で読んでいる。トイレの時は、直接的な言い方をせず、声かけ時の大きさや誘い方に工夫を凝らしながら、尊重した言葉かけ・対応に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 介助の必要な方への声かけには気をつける様、対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | リビングや居室で自分の好きな過ごし方が出来る人が増えた。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で出来る方が増えている。出来ない方には更衣の前に確認している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 声かけしたり、自分から行ってくれる時もあり。 | 行事には、赤飯とケーキを手作りしている。利用者の意見を取り入れたメニューを考え、食事が楽しみになるような出前の握り寿司や押し寿司もときにある。ちらし寿司は、利用者と共に作ったり、野菜の下ごしらえや盛り付けやお茶を入れてもらったりしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 申し送り表や生活記録表に毎日記入している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 出来ている。ご家族の了解を頂いて個人で週一回アップル歯科受診している方もあります。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 介護度や排泄機能に合わせたオムツetc使用し、トイレ誘導などを行っている。 | 個々の排泄パターンを把握し、その方だけに分かる言葉をかけたり、表情やしぐさを把握しながら、気を遣いながら誘導している。手洗い場に、利用者と一緒に用意した、ほかほかのおしぼりを置いておく事で、失敗しても自分で後始末が出来る様にして、自尊心に配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事でヨーグルトを提供したりヤクルトを個別で購入したりしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 夜間の入浴は難しいが本人のタイミングに合わせて様になっている。 | 入浴は、週2回。脱衣所に利用者が作ったちぎり絵を飾って雰囲気を出している。「ちょっとNew Yorkへ行こう！」、「寒くないですか？ちょっと、暖かい所へ行きませんか？」と、浴室まで誘導している。その日の一番風呂の方が、入浴剤を選べ、色々な雰囲気を楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間不眠時は昼寝の声かけをするなど工夫している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬手帳などすぐ確認できるようにしており、薬剤師にも相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1日の中でも一緒に出来る事は行い、行事も参加してもらったり、買い物に行ったりと楽しんでもらえるよう努力している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出や外泊も御家族に協力して頂きながらしている。地域の行事にも参加している。 | 職員と一緒に、目の前の公園やスーパーに行ったり、一緒にゴミ出しをしたりした時に、地域の方や行き交う人とあいさつを交わし合うことで楽しみを増している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 2名の方が財布を持っていて、週1回ヤクルト販売の購入、支払いを行っている。気候の良い日には買い物に行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を持っている方がおられ、充電等必要な事を援助している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには季節の絵を書き、折り紙で貼り絵、折った物で壁画作りをして貼っている。 | 型にはまらず、気にならないリビングで、利用者が、本当にもったりまったりして、愉しそうな姿が見える。利用者は、食事中でも、なんでも語ってくれるところが素晴らしい。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 席の位置の配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 混乱しない様、テプラ等で表示している。 | 思い出の品が肩を並べて勢ぞろいしている。利用者が、どんぐりの背比べみたいに競い合っ、自分の居室を楽しそうに作っているから、笑みがほころんで自慢できる居室づくりをしている。安全面もスタッフが気を付けて見守っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 場所の認識等表示している。 | | |